

伊勢あかりのぼーくを地域から愛されるブランドに～この豚で地域を明るく～

【作品の要旨】

高校生が育てた豚「伊勢あかりのぼーく」で地域畜産業及び地域社会の活性化に取り組んだ。SDGsに配慮した養豚を発信するため、地域企業と連携し、数々の商品を開発。開発商品の具材に地元農産物を使い、地元スーパーで販売イベントを行うなど、地域密着型の活動を行ってきた。また、コロナ禍におけるECサイトやSNSの活用など時代に即した発信を行い、活躍の場を広げている。

【苦勞した点など感想】

コロナ禍で様々な活動が制限され、これまでの先輩と同様の活動ができず、どのような方法で発信できるか考えるのに苦勞しましたが、様々な工夫と地域の方の支えがあり、大変充実した活動と貴重な経験ができました。

【受賞の喜びコメント】

2017年から始まり、5年目を迎えた本活動がこのように認められ、多くの方へ発信できたことを大変嬉しく思います。これからも地域が抱える課題を見つけ、地域の方と共に乗り越えていきたいと思ひます。

三重県立明野高等学校 生産科学科
畜産専攻 商品開発チーム
福田咲蘭 木内昭吾 上村悠也
鹿島大稀 谷村菜瑚 森山 匠



三重県で唯一黒豚を飼育



開発商品「あかりのソーセージ」と
イメージキャラクターのあかりちゃん

審査員からのコメント

本作品は、三重県内の養豚場でも非常に希少な品種のブランド化に取り組んでおり、地域の企業と協働で商品開発に取り組んでいる点が特徴である。とりわけ、本作品では新商品の開発、イメージキャラクターの考案、コロナ禍における販路拡大といった点に焦点を当てている。新型コロナウイルスの感染拡大による売上の減少に対して、ECサイトを開設し、売上の回復に貢献している点も評価された。新商品開発やPR活動のみならず、当該ブランド豚がその地域社会に与える意義についてもっと知りたいと感じた。

